

---

# 神様

ダッフィー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神様

### 【著者名】

ダッフィー

N7003F

### 【あらすじ】

ある村に神様と崇められている石像があった。ある日、その石像が言葉を発した。村人達の運命はいかに…？

(前書き)

短いお話をします。

ある小さな村に数人の男女が住んでいた。  
もちろん老人や子供もいる。

その村では、とある石像を『神様』とし、  
人々はその前で祈りを捧げたりしていたのだった。

ある日…。

その石像が言葉を発した。

「村人達よ、ワタシの前に集まりなさい…」

いつからこの石像を神として崇めていたのかは  
誰一人として知らなかつたが、  
それぞれが知つてゐる限り、神様が言葉を発する事は初めての事だ  
つたので  
村中は大騒ぎになつた。

「神さまがしゃべつたらしいぞ！」

「何かお告げがあるのかもしないわ」

村人達は全員神様の前に集合した。

すると神はこう言った。

「村人達よ、よく聞け。今からお前たちを全員殺す…」

それを聞いた村人たちは唖然とした。

神様ともあろうお方が、こんな事を言つわけがない。  
信じられない事だった。

そんな時、一人の村人が神様に言つた。

「助けてください。私達は神様を大切にしてきたつもりです」

「ふむ。助けてやつてもいいが… その変わり条件がある…」

「何でも聞きます。こここの村人達は神様を信仰している者ばかりです」

「それじゃ… まず村中をきれいにしなさい…」

村人達は必死に村のすみからすみまできれいにした。  
それが終わつて神のもとへいくと、今度はまた違う条件を神に出された。

「今度は3日間の断食だ…」

とにかく神様は村人達がひとつ的事をやり遂げると  
次の条件を出してきたのだった。

厳しい条件はいくつも続いた。

しかし村人達は全てをやり続けた。

これはいつまで続くのだろうか？

神様は何のためにこんな事を我々にさせるのだろうか？  
村人達がそんな疑問を持ち続けた頃、神は言つた。

「もうよひじこ。よくやつた。しかしやはりお前たちを全員殺す……」

「ふざけるな！お前なんて神様でも何でもない！」

「そうだわ。私達は必死に神様の言つ事を聞いてきたのに……」

「神様がこんな残酷なことをするはずがない！」

「こんな奴、神様じゃない！」

村人の半数が神様に文句を言った。

もう半分の村人達は神様の言つた事を黙つて聞いているだけだった。

「はい。今ワタシに文句を言つた者は殺す……」

神は穏やかにそう言つと、次々と村人を消していった。

「残つた者に言つ。ワタシに頼つたり、願い事を言つたり、幸せにしてもらおうなど、つまり自分の私欲のためにワタシは存在していっているのではない。もちろんワタシに見返りを求めるものでもない。

消えていった者達は皆、殺されたくないといつ一心で全て行動していたということだ。それだけにすぎない。

都合のよいときだけ神と崇められる。

そしてワタシが神かどうかなんて誰に分かるというのだ

そういうと石像は粉々に砕けた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7003f/>

---

神様

2011年10月4日10時44分発行